

令和5年度 学校自己評価及び学校関係者評価表 武蔵村山市立第九小学校

経営理念	<ul style="list-style-type: none"> 夢や目標の実現に向けて、自らの道を切り拓く子供を育てる学校 自己を確立しつつ、自己肯定感をもち他者や地域社会のために力を発揮できる子供を育てる学校
------	--

【学校運営協議会・会長】石橋 修
学校運営協議会（学校評価分）令和6年2月16日（金）

	経営目標 (中期・短期を明記)	目標達成のための方策	評価指標	自己評価				改善策(来年度の目標設定、具体記取組目標)	学校関係者評価				
				目標値		最終評価			意見	評価点 (4点満点)			
				前期 達成値	後期 達成値	達成度	評価						
確かな 学力の 向上	(中期経営目標) 質の高い授業の実現 児童の学ぶ意欲の向上と確かな学力の育成	朝学習、家庭学習等を有効に活用し、漢字、計算、言語等の基礎・基本の定着を図る。	市学力調査での基礎学力の正答率	80	62%	B	市学力調査では、到達目標としていた数値には届かない結果となった。「授業が楽しい」という児童の気持ちや意欲を大切にし、今後漢字や計算等の基礎的・基本的な学習の定着と、自分から課題に取り組む意欲の育成を目指す。	朝学習の内容を計画的に進め、主に基礎・基本の繰り返しを徹底していく。また、授業では基礎・基本の定着を図る指導と、思考力・判断力・表現力を育成する指導を、ねらいを明確にして行っていく。家庭との連携をとりながら家庭学習の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・計算は、日常生活の中で利用できるような足していくとよいです。 ・教科書の徹底理解、予習復習に尽きます。予習は次の授業に集中でき、楽しみにするものです。国語は読むだけでもよいと思います。 ・基礎学力は大切なので、もう少し達成感が上がるとよいと思う。 	3.2			
				90	96%	A	話し合いの場を設定し、具体的な指導をすることにより、児童自身が自分の考えをもち、他の考えと比較することをおして、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる児童が増えた。				<ul style="list-style-type: none"> ・これらの取組はとてよい。 ・読書習慣をつけ、興味深かった本の感想文を書かせることで思考力、判断力が養われるものでしょう。 		
				89	85							<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を使った授業は子供がうれしいようです。 ・子供の吸収力は素晴らしいものがあります。学ぶ楽しさがわかると最高です。 	
				95	94%	A	授業が「分かる」「楽しい」と感じている児童の割合は約90%ほどいる。これは、各教員の熱心丁寧な教材研究の賜物である。しかし、否定的な評価をしている児童が約10%程度いるのも事実であり対策が必要である。						
				90	89								
豊かな 心の 育成	(中期経営目標) 安心・安全で、児童が前向きな意欲をもてる学校生活の実現	学年に応じた読書目標の設定、ボランティアを含めた図書室の整備、読み聞かせボランティア活動の継続等を通して児童の読書習慣の獲得・定着を図る。	読書目標に到達した児童の割合(低学年は120冊・中学年は80冊・高学年は50冊)	70	50%	B	読書目標に達している児童の割合は低く、達成度は50%であったが昨年度の32%より大幅に向上した。読書習慣を獲得している児童や、個々の読書量には個人差がある。	学校司書を有効活用したり、授業のねらいに応じた活用方法を工夫していく。また、児童が意欲的に、楽しく読書できる環境整備や時間の確保をしていく。読み聞かせなど、児童の生活の中に読書習慣を定着させていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・素晴らしい取組です。思考力、判断力を養う為好きな本の感想文を書かせるのが効果的だと思います。 ・読書目標の達成は個人差が大きかったとのこと。本を読む事で想像力が豊かになるので習慣になるとよいです。 ・読書を小さい頃から習慣化する事は今後の国語力、発言力、発想等を大きく育てていくので、もっと本を読んでもらいたい。読み聞かせボランティアも継続したい。 	2.6			
				90	100%	A	1学期は生活目標にもあるとおり児童は挨拶をしつかり行っていたが、少しずつ挨拶をしなくなる意識が薄れていた。言葉遣いに関しては、ほとんどの児童が丁寧な言葉遣いを心がけていた。				<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつがよく出来る子どもたくさんいます。先生方ももう少しあいさつがほしい。 ・相手を大切にする言葉遣いは、いじめ防止にもつながり、大人になっても大切なことで、ずっと頭に残るものでしょう。 ・家の近所で九小の児童に会うと、顔を知っている児童はみんなあいさつしてくれてよいと思う。 		
				100	93%	A	学校生活に関する肯定的評価は95%とかなり高い数値となった。これは、教員が児童の気持ちに寄り添った対応していることと取り組んでいる結果だと考えられる。すべての児童が「楽しい学校」と言えるように、今後も努力していく。					<ul style="list-style-type: none"> ・この取組は、とても素晴らしい。いじめ問題は、学校だけではなく、保護者間も配慮する必要があります。 ・楽しい学校生活、友達関係で、いじめや不登校は減ることでしょう。 	
				92	95								<ul style="list-style-type: none"> ・とても素晴らしい取組です。 ・縦割り班で、年少者をリードしたり、いたわる気持ちを養い効果は上がっていると思う。 ・縦割り活動は、九小で長く続く良い活動なのでこれからも続けてほしい。 ・九小は、縦割りの効果でいつも清掃がしっかりできていてきれい。是非これからも続けてほしいです。
				90	100%	A	縦割り班活動に継続して取り組み、自分のよさを発揮したり、相手のよさを見付けたりすることができた。異学年交流をとおして、望ましい集団活動を築き、集団に貢献する意識が育ちつつある。学校関係者の評価も高かった。						
91	89												
(中期経営目標) 特別支援教育の理解・啓発と充実 (短期経営目標) 支援を要する児童への対応	特別支援教室、聴覚言語学級との連携を強化し、各学級における支援を要する児童の充実を図る。学校からの通信や学校公開等をおして、特別支援教育に対する啓発を図る。	保護者アンケートによる肯定的評価	80	99%	A	肯定的評価が80%程度とやや低い。校内での取組を学校からの通信や学校公開等をおして、更に特別支援教育に対する理解を深めていくことが重要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の児童への支援を強化するために、特別支援教室や難聴言語学級と校内委員会での連絡を密にしていく。特別支援学級担任による合理的配慮の理解啓発授業を実施していく。また、そのことを保護者の皆様にもお伝えしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育について、もっとよく知りたいです。 ・教職員は本向きに取り組んでいると思います。 ・授業公開をした事は良かったと思う。 	3.7				
			78	81									
健やかな 体の 育成	(中期経営目標) 丈夫な体とたくましい心の育成 (短期経営目標) 健康な体を意識させる日常的な指導の充実	体力テスト結果や体育授業での児童の実態を踏まえ、児童が自らの体力向上について課題意識をもち、改善できるよう指導する。	教職員による取組評価	85	94%	A	児童自身が体力向上に向けた目標をもち、持久走や縄跳びに取り組むことができた。特に今年度は縄跳びの強化週間を設け、積極的に取り組む様子が見られた。肯定的評価も高く、保護者の理解を得ている。*令和5年度体力向上優秀校(武蔵村山市より表彰)	体力テストの結果に基づき、運動や健康に関する授業や運動会等の体育的行事や各種取組を効果的に活用し、更なる体力向上と生活習慣の確立を図っていく。縄跳び、持久走は強化週間を設ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームをする事が多いですから外で遊んでほしい。 ・懸垂、器立で、なわとびを推奨します。家庭でも一人でできるうえ、得意科目になるかも知れないし、自信もつきます。 ・1学期のプール指導ができた事は、大変良かったと思う。 	3.6			
				80									
				90	103%	A	保護者アンケートでは、肯定的評価がかなり高かった。むし歯治療率は48%であった。児童の健やかな体と心の育成にも、保護者への啓発が必要であった。				<ul style="list-style-type: none"> ・健康増進には数棒にぶら下がるだけで良い。中学の部活にも意欲がわくのではないかと思う。 ・健康意識を上げなくてはならない。 		
88	98												
開かれた 学校	(中期経営目標) 積極的な情報提供、計画的な連携を地域・保護者と深める教育を推進する。 (短期経営目標) 地域・保護者との連携と、学校教育情報の積極的な提供	地域の人材・施設・自然環境を積極的に導入した体験的な学習、及び保護者の協力を得た活動・学習を年間2回以上実施する。	教職員による成果評価	90	94%	A	地域や外部の方々と連携した体験的な活動(かてつどん作り、村山大島船体験、ミカン農家講師招へい、近隣大型商業施設と連携した学習、子どもホームの近隣の交流等)を行なった。生活科の学習では、昔遊びを学校運営協議会委員や青少年委員に教わることでできた。	地域の人材・施設・自然環境を積極的に取り入れた体験的な学習をおして、地域を大切にしたいという思いを育み、地域のために自分たちができると考え、自ら行動しようとする意欲と態度を育成していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・武蔵村山の地域はよい環境があり、勉強するにはとてもよいです。 ・地元自治会の納涼祭では大勢の子供達が来て楽しんでいました。こういうことも大切でしょう。 ・昔遊びの取り組みで地域の方と交流する機会があり、とてもよかったです。 	4.0			
				85									
				90	103%	A	様々なツールを活用して情報発信に取り組んだ結果、保護者アンケートで高い肯定的評価をいただいた。達成度でも、103%であった。HPや学校X(エックス)を随時更新したり、学級での様子や学級だよりを発信するよう努めた結果であると考え				<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページの更新は大事であり、九小はよく更新されていると思う。ご苦労さます。 		
91	96												

【達成度】 = 【達成値】 / 【目標値】
 【評価】 A: 8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定 B: 8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施 C: 5割未満→目標の見直し

平均値 3.7